

1. 公益目的事業の実施内容

1-1. 支援プロジェクト

1-1(1) 教育支援

■学校校舎建設事業

◆連携団体：シャンティ国際ボランティア会

◆対象地域：カンボジア・ポーサット州

◆支援額：200 万円（2020 年度支援額）

カンボジア・ポーサット州のオーロムチェック小学校は、校長先生とボランティア教員 3 名で運営している。以前の木造校舎は、土台となる細い柱はシロアリによる被害が大きく、崩壊の危険性がある中で使われていた。トタン屋根は、たくさんの穴が開いており、雨漏りが深刻な状態であった。そのため、2020-2021 年の 2 ヶ年でこの学校の新校舎建設支援を行っている。

■奨学金支援

◆連携団体：KKEV（教育支援を行う現地 NGO）

◆対象地域：カンボジア・センソック地域（プノンペン市郊外）

◆支援額：約 50 万円（中学・高校生・大学生・職業訓練校生：11 名分）

センソック地域（スラム）に暮らす成績優秀だが経済的に学校に通うことが困難な状況にある生徒の学費や教科書、制服、交通費等を支援。2020 年度は 11 名を支援（4 名はスカラーペアレント制度、1 名は大学生奨学金支援制度、残り 6 名はセカンドハンドユースが支援）した。

1-1(2) 自立支援

■女性の自立支援事業、フェアトレード事業

◆連携団体：ラチャナハンディクラフトバッタンバン（現地 NGO）

◆対象地域：カンボジア・バッタンバン州

◆支援額：約 30 万円

貧しい生活を強いられている女性たちの経済的自立をめざし、ラチャナハンディクラフトへの運営アドバイスを引き続き行っている。2013 年度から引き続き、高松市にある保育園からの委託で保育園制服の製作依頼も行っている。



また、現地の女性たちが製作した商品を適正な価格で購入し日本で販売することにより、フェアトレード商品の普及を図っている。商品の販売は、チャリティショップ内だけでなく、イベントへの出品を通して広くフェアトレード商品を知ってもらう場を提供している。また、県内外問わず、お店を経営されている方々等のご協力を得て、店内に商品を置かせて頂くことで、より多くの方々に商品を手にとってもらえる機会となっている。

《委託販売先》 順不同・敬称略

四国フェアトレードネットワーク、和 Cafe ぐう（香川郡直島町）、永井敬子（東京都）、オリーブ（三豊市）

■ フォスター・ペアレント制度

- ◆連携団体：ホームランド（現地 NGO）
- ◆対象地域：カンボジア・バッタンバン州
- ◆支援額：約 80 万円

NGO ホームランドは、地域の貧困家庭の子ども達を対象に、食事を始めとする生活費、教育費、子ども達の親の支援、地域住民への HIV 教育などのプロジェクトなどを実施し支援している。日本の支援者が貧困家庭の子ども達の「里親」となり、手紙のやり取りをして繋がる「フォスター・ペアレント制度」を通じて NGO ホームランドへの支援を行った。2020 年度は、22 名の里親が 23 名の子ども達を支援した。



■ 貧困家庭への自立支援

- ◆連携団体：ホームランド（現地 NGO）、KKEV（現地 NGO）
- ◆対象地域：カンボジア・バッタンバン州、カンボジア・センソック地域（プノンペン市郊外）
- ◆支援額：約 33 万円

カンボジアの貧困家庭の子どもやストリートチルドレン、DV を受けている子ども等、支援が必要な子どもたちを保護し、施設、あるいは親や親戚もしくは現地の里親のもとで生活できるようにサポートしている 2 つの現地 NGO を支援した。KKEV への支援では、小学生への就学支援を行う「スタディサポートペアレント制度」を開始した。資金は、子ども達の就学支援のために、必要な経費に充てられた。

- ◆連携団体：OAU（現地 NGO : Orphan Affairs Unit）
- ◆対象地域：マラウイ・マルンジエ地域
- ◆支援額：約 10 万円

OAU は 2018 年より活動を開始し、ECD（幼稚園）、OVC（青少年活動）、貧困家庭への食糧支援等を行っている。最貧国のひとつであるマラウイ共和国のマルンジエ地域で活動する OAU を通し、貧困家庭の子ども達への支援を行った。

■ 保健衛生指導者育成プロジェクト

- ◆連携団体：香川県立保健医療大学、ホームランド孤児院（現地 NGO）
- ◆対象地域：カンボジア・バッタンバン州

ホームランドのケースワーカーが周辺の極貧家庭を定期的に訪問し、子どもの就学を支援するとともに、保健衛生状況の観察、家庭への必要な助言を行った。

1-1(3)医療支援 ※COVID-19 のため実施していない

1-1(4) 緊急支援

■COVID-19 緊急支援

◆支援額：約 60 万円

COVID-19 により影響を受けている貧しい子ども達のために寄附金を集め、KKEV（約 20 万円）、ホームランド（約 20 万円）、香川県社会福祉協議会（20 万円）にそれぞれ寄附を行った。香川県社会福祉協議会への寄附は、コロナ禍で困窮した子ども（の家庭）を支援する子ども食堂等の活動支援のために使われた。

1-2. 支援先視察・交流事業

1-2(1) 事業調整者による現地視察

COVID-19 のため、本年度は実施していない。支援先とは、インターネットを通し、定期的に連絡を取り合い、状況確認を行った。

1-2(2) 支援者と支援先関係者との交流

COVID-19 のため、本年度は実施していない。

1-3. 人材育成事業

1-3(1) セカンドハンドユースのサポート

※セカンドハンドユースの活動内容は、P.7 を参照

香川県内で、社会を良くするために何かしたいと活動する学生たちに、活動の場の提供や活動のサポート等を行った。

1-3(2) ボランティア体験・インターン受入

本年度は COVID-19 のため、少人数でのボランティア体験の受け入れを行った。

【主な参加校】

高松高校、高松東高校、高松西高校、高松南高校、桜井高校、高松商業高校、三木高校、星槎大学 等

1-4. 観察・調査受入れ事業

松縄店にて、高知県黒潮町社会福祉協議会からの観察を受け入れた。

1-5. 講演・講座事業

1-5(1)香川大学国際協力論 ※COVID-19 のため実施していない

1-5(2)国際協力論合宿 ※COVID-19 のため実施していない

1-5(3)講演会開催 ※COVID-19 のため実施していない



1-5(4)講師派遣

本年度は計 20 回の講師派遣を行った（受託事業・JICA 国際協力出前講座、オンライン実施含む）。

《2020 年度の講師派遣先》順不同・敬称略

香川大学、松山国際交流協会、土佐町立土佐町中学校、義務教育学校土佐山学舎、高松大学、サスケアカデミー高松、高松商業高校、高松北中学校、玉藻中学校、大洲市立喜多小学校、高知県立室戸高校定時制、香川県立農業大学校、高知県立高知東高校、高知市立青柳中学校、宇和島市立吉田中学校(オンライン)、高知追手前高校(オンライン)、四万十市立蕨岡中学校(オンライン)、星槎大学

1-6. 広報事業

《メディア掲載》

2020/6/5 リビングたかまつ 【掲載内容】不用品をカンボジアの支援に

<p style="text-align: center;">不用品をカンボジアの支援に セカンドハンド</p> <hr/> <p>提供された品物を「チャリティーショップ」と呼ばれる店舗で販売。その収益をカンボジアの支援に活用します。受け入れる品物は衣類(現在は夏物)、食器、本、靴、カバン、日用品、雑貨など。ただし壊れているもの、破れやシミのあるものなど、商品としてそのまま販売できないものは持ち込めません。状態を店頭で確認後、引き取れないものは持ち帰ってもらう場合もあります。詳細は問い合わせを。</p>	<p>問い合わせ</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 高松店 高松市観光通1-1-18 ☎ 087(861)9928 ◆ 営：月～金曜の午前10時～午後4時 ※祝日の場合は休み ● 松縄店 高松市松縄町37-5 ☎ 080(4999)0494 ◆ 営：土～水曜の午前11時～午後7時 (土・日曜は～午後6時) ※祝日の場合は休み
--	--

2020/6/21 読売新聞 【掲載内容】カンボジア支援マルシェ ※P.6 参照

2020/9/1 高齢者いきいき案内所季刊誌 生き活き つながる

【掲載内容】使用済み切手の寄付、子ども食堂への物品提供

2020/10/21 福祉香川 【掲載内容】寄付（新型コロナウイルス感染症緊急支援）

2020/12/4 高知新聞読もつかN I E 【掲載内容】未来を変える SDGs

1-6(1)キャンペーン

アイバル香川にて、パネル展示を行った。また、YouTube に活動紹介動画をアップロードし、当団体の活動をはじめ、国際協力やボランティアの普及・啓発のため情報提供及び情報発信を行った。

1-6(2)イベント開催

広くセカンドハンドについて知ってもらうため、主催バザーやイベント出店を行った。収益は、合計 606,540 円。

《2020 年度主催イベント》 売上合計 : 606,540 円

チャリティバザー 売上 : 44,970 円 (6 月 14-15 日)

チャリティ食器市 売上 : 41,060 円 (7 月 12-13 日)

チャリティバザー 売上 : 59,380 円 (8 月 30-31 日)

チャリティ布はぎれ・古本市 売上 : 120,740 円 (9 月 13-14 日)

チャリティバザー 売上 : 46,730 円 (10 月 11-12 日)

チャリティ食器市 売上 : 55,920 円 (11 月 1-2 日)

チャリティ布はぎれ・古本市 売上 : 127,270 円 (12 月 6-7 日)

チャリティバザー 売上 : 36,640 円 (1 月 24-25 日)

チャリティバザー 売上 : 73,830 円 (3 月 14-15 日)

《2020 年度出店イベント》 売上合計 : 46,600 円

フェアトレードまつり 売上 : 6,550 円 (5 月 31 日)

みんなでみんなの輪い和いかい 売上 : 9,850 円 (10 月 31 日)

三宅産業展示会 売上 : 30,200 円 (10 月 31 日-11 月 1 日)

1-6(3)セカンドハンド通信発行

セカンドハンド通信が 100 号を迎えたことから、デザインを一新し、クメール語で「手紙」を意味する「Sambot(サンボット)」としてリニューアルした。リニューアルに伴い、編集を外注から事務局自作に変更し、作成にかかる経費を大幅に削減することができた。

- 2020 年 4 月発行 Sambot Vol.100 内容：教育支援、自立支援、ホームランドについてお知らせ
- 2020 年 7 月発行 Sambot Vol.101 内容：新型コロナウイルスの打撃
- 2020 年 10 月発行 Sambot Vol.102 内容：新型コロナウイルス感染症緊急支援
- 2021 年 1 月発行 Sambot Vol.103
内容：JICA 国際協力出前講座、セカンドハンド松縄店 3 周年、香川県子どもの未来応援ネットワーク

1-6(4)ウェブサイト、ソーシャルメディア（ブログ、Facebook、インスタグラム、Twitter）

ホームページを通して、当団体の活動や支援先の状況等の情報を発信している。ブログ、Facebook、インスタグラム、Twitter では、活動内容、支援の状況や報告をタイムリーに更新している。

1-7. チャリティショップ定着・3R 促進事業

本年は COVID-19 のため、全店舗で営業時間の短縮、臨時休業を行った。影響の大きかった 5 月の売上は、前年度の約半分となった。

■ 高松店

店内のレイアウト変更を行い、入り口部分を広く開けたことで、新規客が入ってきやすくなつた。また、通風が改善し、感染症対策ともなっている。

■ 片原町店

商店街に立地するため、これまで観光客が多く来店していたが、本年は COVID-19 のため、観光客の姿はほとんど見られず、売上にも影響が続いている。

2021 年 2 月には、店内照明の改修工事、店内のレイアウト変更を行い、誰もが入りやすい店づくりを行つた。改修後は、「これまでセカンドハンドのことは知っていたけど、店に入ったことがなかった」というお客様も多く見られた。

■ 松縄店

毎月のイベント開催や、SNS の活用を通じて、幅広い世代へのアプローチを試みた。新規来店者、ボランティア共に徐々に増加している。

	高松店	片原町店	松縄店	3 店舗合計
2020 年度	¥ 1,808,765	¥ 7,423,944	¥ 1,518,878	¥ 10,751,284
2019 年度	¥ 2,210,140	¥ 8,800,275	¥ 1,224,090	¥ 12,234,505
2018 年度	¥ 2,701,095	¥ 8,138,980	¥ 1,240,600	¥ 12,080,675
2017 年度	¥ 2,737,560	¥ 8,486,570	¥ 690,613	¥ 11,914,743
2016 年度	¥ 3,389,720	¥ 8,608,330	-	¥ 11,998,050

※松縄店オープン：2017 年 12 月

1-8. チャリティイベント開催事業

7団体にご協力頂き松縄店でチャリティマルシェを開催した。このうち 5 団体は物販だけでなく物づくり体験のワークショップも実施し、子どもから大人までが楽しんで参加できるイベントとなった。

- チャリティマルシェ（6月 20-21 日） 売上：6,600 円

カンボジア支援マルシェ

高松市松縄町のチャリティーショップ「セカンドハンド松縄店」でハンドメイド作家らが出店する「チャリティーミニマルシェ」（公益社団法人セカンドハンド主催）が20日、始まった。収益の一部はカンボジアの小学校の建設費や教育支援のためにあてられる。21日まで。



ツ手作りアクセサリーのワークショップに参加する親子（高松市で）

き
よ
う
ま
で
高
松
で
11
店

会場には11の個人や団体が出店。ドライフルーツを使用したアクセサリーの販売や手作り体験のほか、子どもが口に入れても安全なカップケーキ状の入浴剤を作るワークショップなどが行われ、子どもから大人までが楽しんだ。松縄店でふだんから寄付として無償で受け付けた衣類や食器なども並べた。

親子で訪れ、アクセサリー作りに挑戦していた高松市の黒川誠子さん（47）は「イベントを通じてカンボジアの支援につながればうれしい」と話していた。セカンドハンド事務局職員の川内衣梨絵さん（36）は「出店者や客同士が楽しんでイベントに参加することが、国際協力につながると実感してもらいたい」と期待していた。

21日は午前11時から午後4時まで。新型コロナウイルス感染対策として、来店者にはマスクの着用を呼びかけている。問い合わせは、同店（080・4999・0494）。

2. 関連する団体の事業内容

■ セカンドハンドユース

2020 年度は、街頭募金活動とクラウドファンディングで 222,996 円を集め、貧困のため学校に通えない学生 6 名の奨学金支援を行った。

《セカンドハンド通信 101 号より》

2020 年度は 6 名の奨学生のために 22 万円を支援する予定ですが、コロナの影響で 4 月以降、一度も街頭募金活動を実施できていません。また、大学のスケジュールが忙しくなり、ユースとしての活動を休止せざるを得ないメンバーも多数出てきています。このような厳しい状況を打開するため、オンラインでのセカンドハンドユース・オリジナルチャリティグッズの販売や街頭募金の代わりとなるクラウドファンディングの立ち上げに向け準備しています。また、セカンドハンドユースの Web サイトの開設も検討しています。

《セカンドハンド通信 102 号より》

夏休みを利用して、ユースのウェブサイト開設に注力しました。サイト制作を通して、活動の意義を再確認し、今の置かれている環境で何ができるのか考える貴重な機会になりました。定期的に行っていた街頭募金活動も再開できておらず、今はまだ思うような活動ができていません。そこで、今年度に限りサイト内に寄付ページを設けることにしました。ご寄付でユースの活動を支えて下さる方はどうぞよろしくお願いします！集まったご寄付は、ユースが支援を行う 6 名の学生の奨学金として使わせていただきます。



■ セカンドハンド北海道

《セカンドハンド通信 101 号より》

北海道では全国に先駆けて知事が独自の緊急事態宣言を発令しました。めでたく第一子誕生なのに面会できない、お子さんは休校で家に居ても出勤しなければならないなど、スタッフにも影響がありました。毎年参加しているフェアトレードフェスタはオンラインで開催されることになり、セカンドハンドの動画をアップしています。ぜひご覧ください。

【YouTube：フェアトレードフェスタチャンネル】

<https://www.youtube.com/channel/UC6uPYydmSVPSOzmR3tiLqPw>



※写真は 2019 年度イベント出店時のもの

■ セカンドハンド関東

《セカンドハンド通信 101 号より》

セカンドハンド関東は 2 年ぶりに、カンボジアフェスティバルへ出店予定でしたが、キャンセルになりました。風邪をひいたときに、薬を飲んで熱を下げるのではなく、安静にして自然治癒を待つ、自己治癒力を高めることが注目されています。化学物質としての薬は必ず副作用があります。ウィルスとの共存は夢物語でしょうか。もう、満員電車には乗れないなあと感じながら、そんなことを考えています。

■ セカンドハンド大阪

事務局への経理面でのアドバイス、決算書や申告書の作成などをサポート。

■ 日本チャリティショップネットワーク(JCSN)

全国のチャリティショップ運営団体で構成された、国内でのさらなる定着を目指したネットワーク団体。